

開拓  
守備

年箱館奉行ニ拜シ、左近將監ニ任ズ、竹内保徳、安政元年箱館奉行ニ拜シ、下野守ニ任ズ、新藤方涼、安政元年箱館奉行支配組頭ト爲リ、文久三年箱館奉行格ニ拜ス、堀利熙、安政二年箱館奉行ニ拜シ、織部正ニ任ズ、村垣範正、安政三年箱館奉行ニ拜シ、淡路守ニ任ズ、津田正路、安政五年箱館奉行ニ拜シ、近江守ニ任ズ、勝田充、萬延元年箱館奉行ニ拜シ、伊賀守ニ任ズ、栗本鯉、萬延元年箱館奉行支配組頭勤方ト爲リ、慶應三年外國奉行兼勘定奉行箱館奉行ニ拜シ、安藝守ニ任ズ、糟谷義明、文久元年箱館奉行ニ拜シ、筑後守ニ任ズ、小出秀實、文久二年箱館奉行ニ拜シ、大和守ニ任ズ、杉浦勝誠、慶應二年箱館奉行ニ拜シ、兵庫頭ニ任ズ、

○按ズルニ箱館奉行ノ事ハ官位部遠國奉行篇ニ詳ナリ、

〔本田利明異國話〕蝦夷土地開發成就して良國と可成事

すべて庶人のおもはく、蝦夷の土地は雲霧深くして、濕地なれば、住馴れざる日本の人抔は、中々以て住居難成土地也、假令おして住居するとも、五穀も生せざれば食物乏しく、因て忽ち飢に及ばん、殊更に濕氣を受、病を發して、廢人と成べし、亦往古より日本の農民度々渡海して、耕作種々に蒔植仕付等して試たる事有といへども、終に稔りし例なし、依て今に至りても開發せざるべし、○中 天下萬邦、各南北兩極出地凡そ二十三度計りより六十二三度に距りても、四季有て、百菓百穀出産して、人民の住居又大同小異なり、然るに蝦夷土地に限りて、霧至て深く濕地成べき筈なきに、如何となれば、はやく云へば土地に人民乏敷して、耕作の地面なきゆへ、山岳曠野悉く大樹、或は柴草繁茂せし故、是に覆はれ、地面の陰冷の濕氣、太陽の温熱の乾氣、各霄壤に昇降せず、地面に屯鬱するゆへ、雲霧悉く土地を蔽ふ、○中 此地面を覆ふ所の雲霧を悉く逐ひ拂ひ、霄高く押し揚、常の雲となる大計策は、其最初は仁政よりはじむ、御料私領寺社領に毎年死刑に行ふべき